

CeMI 気象防災支援・研究センター

News Letter

Contents

1. 大火
2. 台湾の地震活動と地震情報
3. お天気よもやま話 ~ひな祭り(桃の節句)



1 大火

総務省消防庁の消防白書の資料でみると、火災の発生件数は月別では3月が最も多くなっています。さらに、春は過去に大きな火事が多かったことが知られています。

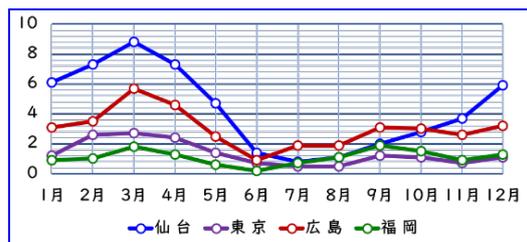
なかでも明暦3〔1657〕年の江戸の明暦の大火と天明8〔1788〕年の天明京都大火は火災の規模から見ても国内の火災としては最大級の火災です。当時そびえていた壮大な江戸城の天守閣もこの明暦の大火で焼け落ち、以来現在まで再建されていません。明暦の大火は現在の暦では3月2日に出火して江戸市中の大半の家屋を焼き尽くしました。焼失した家屋や亡くなった方の数は、様々な説があるものの規模が大きくはっきりした数字は分かっていません。死者は3万人から10万人とも言われています。史実としては不明ですが、この火事は講談や歌舞伎などでも取り上げられ、巷間では“振袖火事”としても有名です。また、明和9年4月の目黒行人坂大火、文化3年4月の文化大火とともに江戸の三大大火とされており、西暦64年のローマの大火、1666年のロンドンの大火とともに世界三大大火のひとつともされています。

諸説ありますが、この火事の火元は3か所であったと言われており、放火説や出火の時間差から飛び火によるものなどの説があります。当時の記録では、3か所の出火場所からいずれも南東から東方向に燃え広がっており、「戌亥

〔いぬい=北西〕の風が強かった」という記録も残っていることから、北西の強い風によって火災が大きく広がったことが分かります。

また、天明8年3月には天明京都大火が起こりました。新暦の3月7日、鴨川の東から出火、鴨川を越えて京都市内に燃え広がり、京都御所や二条城など、市街の8割が焼失したと言われています。残されている図を見ると、火元から西あるいは北方向に燃え広がっており、明暦の大火の時とは逆に南寄りの風が吹いていたと思われます。

右の図は月別の日最大風速10m/s以上の日数です。3月は強い風の吹く頻度が大きいことが分かります。



月別の日最大風速10m/s以上の日数

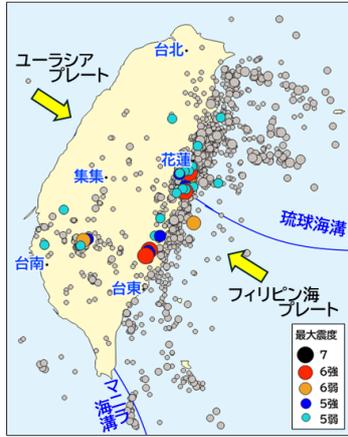
また、冬季の乾燥状態から引き続いて湿度も低く、強風、乾燥下で火災の拡大しやすい気象条件にあります。

春は火災の多い季節であり、山林や原野での火災に限らず、火災の拡大につながる気象条件も揃っています。これからの季節、火の取り扱いには一層の注意が必要です。



2 台湾の地震活動と地震情報

最近、台湾での地震に関するニュースを目にすることが多いと感じるので台湾の地震事情について見てみます。



台湾周辺は、日本周辺と同じように複数のプレートが接しており、日本と同じように地震活動が活発(図1)な地域で、内陸部や海域で発生した地震により繰り返し被害を受けています。近年の規模の大きな地震のうち内陸部で発生した地震としては、1999 (H11) 年9月21日に発生した集集地震(マグニチュードMw7.7)があり、台湾中部を中心に死者・不明者数は2千人を超え、3万棟もの建物が倒壊する甚大な人的・物的被害が発生しました。

沿岸部で発生した地震としては、2024 (R6) 年4月3日に台湾東部沿岸部で発生したMw7.4の地震により、震源に近い東部沿岸部では最大震度6強を観測し、台湾の広い

範囲で震度3以上を観測しました。日本国内でも沖縄県与那国町で震度4を観測したほか、沖縄県で震度3～1を観測しています。津波も発生し、与那国島久部良27cm、宮古島平良で25cm、石垣島石垣港で17cmの津波を観測しました。

このように台湾も日本同様の地震活動が活発なことから地震観測施設は充実しており、震度観測地点も多数配置されています。震度の判定方法は、日本の気象庁震度階級とは計算式に細かな違いがあるようですが、震度5と震度6を強・弱に細分した0～7の10階級となっているなど、日本の気象庁とほぼ同じようです。台湾交通部中央氣象署HPによると、台湾ではマグニチュード5以上で震度3以上と推定される地震が発生した場合には、地震発生から20秒から30秒後に推定される震度などの地震速報がテレビで放送され(図2)、概ね5分から10分以内に交通部中央氣象署HPやテレビ・ラジオを通じて市民は、震源や各地で観測された震度を知ることができるようです。



図2: テレビによる地震速報のイメージ (台湾中央氣象署HPより)

3 お天気よもやま話 ～ひな祭り(桃の節句)

ひな祭り(ひなまつり)は、3月3日に行われる節句行事のひとつで、桃の節句とも呼ばれます。女の子の健やかな成長や幸せを願うお祝い行事です。

節句とは、年間の節目にあたる日のことで、日本にはさまざまな節句があったといわれています。江戸時代にそのうちの5つを五節句と定め、全国で祝うようになりました。

五節句には1月7日の人日(じんじつ)の節句、3月3日の上巳の節句、5月5日の端午(たんご)の節句、7月7日の七夕(しちせき)の節句、9月9日の重陽(ちょうよう)の節句があります。人日の節句には七草粥を食べますし、端午の節句は子どもの日、七夕の節句はその字のとおり七夕(たなばた)の行事があります。重陽の節句は、中国で菊は邪気を払う力を持っているとされており、日本にも語り継がれ、菊の花を楽しむ行事となっています。

本題の「ひな祭り」は、3月3日の上巳の節句のことで、どのようにして女の子の節句となったのでしょうか。

上巳の節句の「水辺で厄払いをする習慣」が、日本古来の人形(ひとがた)に災厄をうつして川や海に流して清める「流し雛」となります。それが、平安時代から貴族の子女が紙や布の人形を使って遊んでいた「ひいな遊び」と一緒になっていきました。

江戸時代には、3月3日に女の子の行事として雛人形を家に飾る習慣が定着しましたが、やがて、女の子の成長と幸せを願って、家族や親戚みなでお祝いする現在の形になりました。このため「ひな祭り」と呼ばれるようになったといわれます(諸説あり)。

また、「桃の節句」と言われるのは、上巳の節句が旧暦の3月3日で、現在の暦では4月上旬ごろにあたり、桃の花が咲く時期にあたるためです。桃は、古くから魔よけの力を持つといわれており、ひな祭りには桃の花を飾るようになりました。このようなことから、ひな祭りは「桃の節句」とも呼ばれています。



掲載内容へのご意見、そのほかサービスに関するご相談・ご要望等ございましたらお気軽にご連絡ください。

NPO法人 環境防災総合政策研究機構(CeMI)

気象防災支援・研究センター

〒160-0011 東京都新宿区若葉1-22口ーヤル若葉105号
<http://www.npo-cemi.com/center.html>

☎ 03-3359-7971

☎ 03-3359-7987

✉ advisory@npo-cemi.com

